

ヤマトシジミ

Corbicula japonica Prime
ザルガイ目・シジミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県の主な生息地である北潟湖や久々子湖では、県外産の稚貝の放流が盛んで、在来種とはいえない。また、九頭竜川河口部での生息数も減少し極めて少ない。

種の特徴

汽水域に生息するシジミで、殻長は最大で 50 mm に達する。殻質は厚質堅固。殻頂部の膨らみはやや強い。殻色は外側が光沢のある茶褐色～黒色で、内側は幼貝では紫色を帯びた紺色で成長するにつれ白色に変化する。雌雄異体で卵生。

分 布

北海道～九州まで広く分布する。本県では北潟湖や久々子湖、日向湖と九頭竜川河口に生息したことが知られる。

生息を脅かす要因

主な生息地である北潟湖や久々子湖には、比較的多く生息する。ただし、県外産の稚貝の放流を行ってきた結果、現在生息しているものが在来の本種である可能性は極めて低いといえる。

参考文献 福井県編 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、増田・内山 (2010)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○						○		○				

オオタニシ

Cipangopaludina japonica (Martens)
新生腹足目・タニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

清浄で水温変化の少ない大型水域に生息するため、平野部の水田地帯には少ない。山麓帯の谷池の崩壊や溜池の開発により、生息域が縮小し、個体数が減少している。

種の特徴

殻高 60 mm 前後で、螺層は約 7 層あり、各層の膨らみはマルタニシよりやや弱い。殻底角があり、弱いながらも螺状脈も有する。周縁角は顕著で、2 本の角張った螺状脈があり、この上に細い殻皮毛を配列する。

分 布

北海道から九州にかけて全国的に分布する。河川のワンドや大きな湖沼、農業用水地に生息する。県内では、九頭竜川水系や南川水系、北川水系、北潟湖に生息する。

生息を脅かす要因

湖沼や湿地の開発や埋め立て、自然溜池の災害防止のための破壊による生息地の改変と大型サギ類や外来種による捕食が原因となる。

参考文献 増田・内山 (2004)、吉良 (1981)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014a)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コシダカヒメモノアラガイ

Fossaria truncatula (Müllén)
異鰓目・モノアラガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

環境省 RDB2000 年の DD から今回は指定が外された。日本の定着外来種であるが、県内での生息確認が少なく、評価するだけの情報が足りない。しかし、今後の動向について注目していく必要がある。

種の特徴

殻高 10 ～ 12 mm 程度。殻質は薄く、殻色は茶褐色である。平野部の水田、水路、池等の水際に生息する。泥のくぼみや植物の根元にみられ、湿ったコンクリート壁等の水面近くや水域から出ても生息できる。

分 布

日本全国に分布する。本県では、嶺南から嶺北の平野部を中心に広く分布する。

生息を脅かす要因

湿地の減少や、水田の早期中干しによる乾田化、農薬の散布等による生息環境の悪化が起因である。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2014a)、内山編 (2009)、増田・内山 (2004)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○								○	○			○